

3 費目別指数の動き

費目別に前年からの動きをみると次のとおりである。

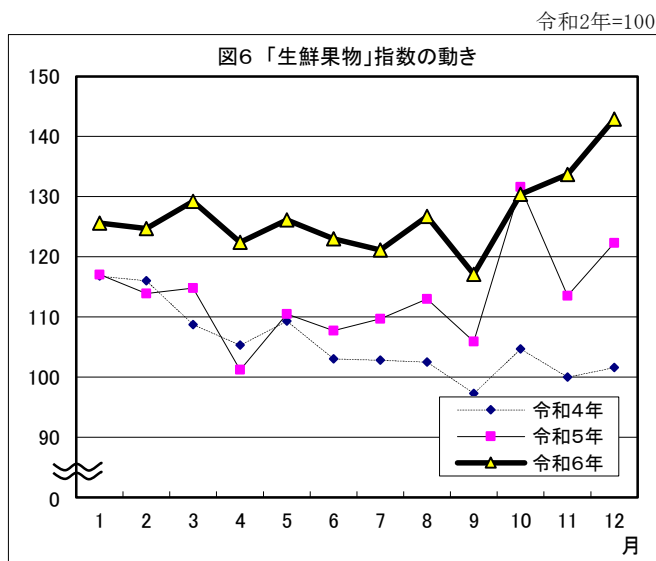
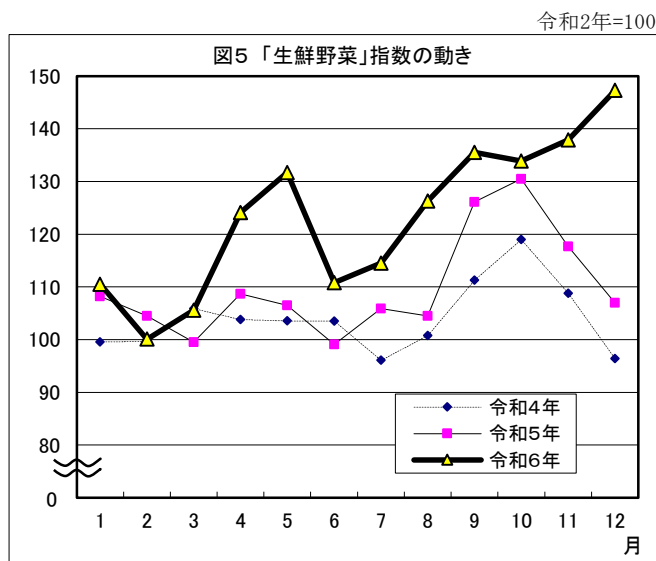
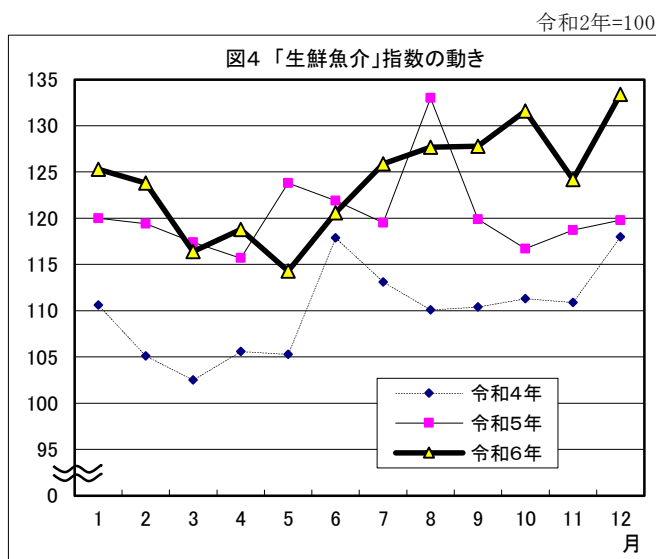
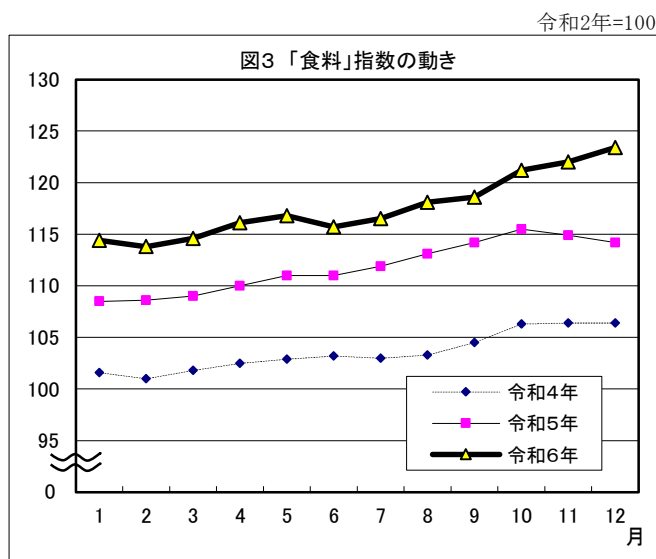
食 料

令和6年平均は117.6となり、令和5年平均に比べ(+)5.2%の上昇となった。

内訳をみると、野菜・海藻(+)10.7%、果物(+)10.2%、穀類(+)9.6%、飲料(+)7.2%、肉類(+)5.9%、菓子類(+)5.3%、外食(+)4.6%、魚介類(+)3.0%、調理食品(+)2.6%、油脂・調味料(+)1.6%、酒類(+)1.3%とそれぞれ上昇した。一方、乳卵類(-)1.5%と下落となった。

生鮮食品についてみると、生鮮野菜(+)12.1%、生鮮果物(+)11.9%、生鮮魚介(+)3.0%となり、生鮮食品全体では(+)9.1%の上昇となった。

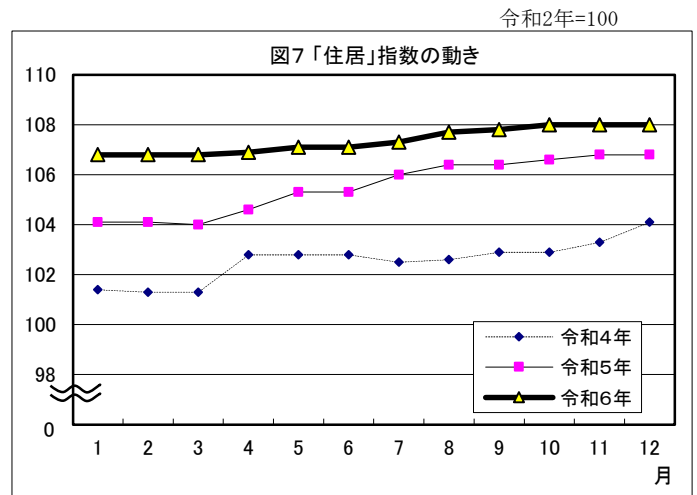
※ なお、月々の動きはグラフのとおり。(以下同じ)



住 居

令和6年平均は107.4となり、令和5年平均に比べ(+)1.7%の上昇となった。

内訳をみると、設備修繕・維持は(+)5.6%、家賃は(+)0.8%の上昇となった。



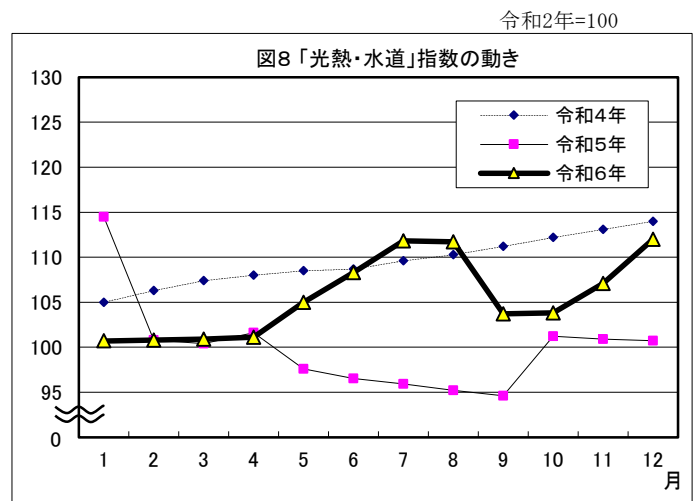
光熱・水道

令和6年平均は105.6となり、令和5年平均に比べ(+)5.6%の上昇となった。

内訳をみると、上下水道料は変わらず。

電気代は(+)11.4%、他の光熱は(+)2.9%の上昇となった。

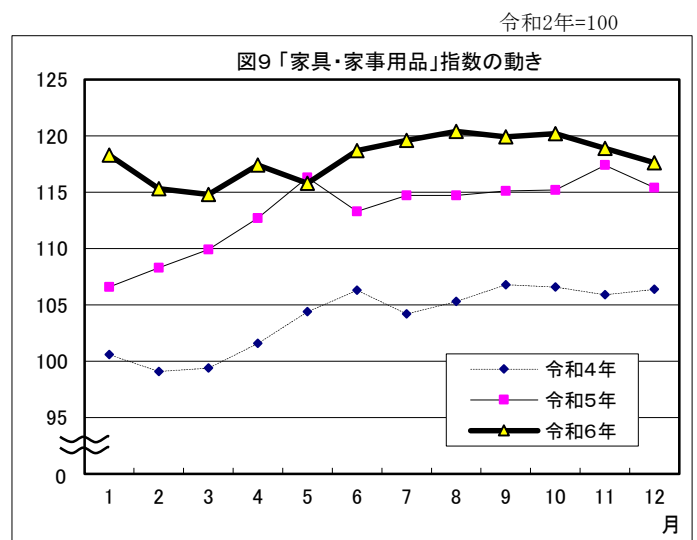
一方、ガス代は(-)0.1%の下落となった。



家具・家事用品

令和6年平均は118.1となり、令和5年平均に比べ(+)4.2%の上昇となった。

内訳をみると、室内装備品は(+)18.5%、家事用消耗品は(+)5.0%、家事雑貨は(+)4.3%、家事サービスは(+)3.5%、寝具類は(+)2.2%、家庭用耐久財は(+)2.1%の上昇となった。

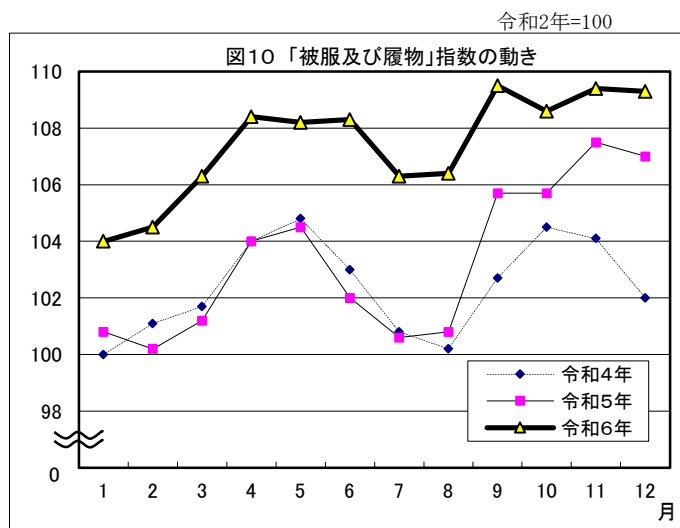


被服及び履物

令和6年平均は107.4となり、令和5年平均に比べ(+)4.0%の上昇となった。

内訳をみると、洋服は(+)7.5%、被服関連サービスは(+)3.4%、シャツ・セーター類は(+)2.3%、下着類は2.2%、和服は(+)0.9%、他の被服は(+)0.8%の上昇となった。

一方、履物類は(-)1.1%の下落となった。

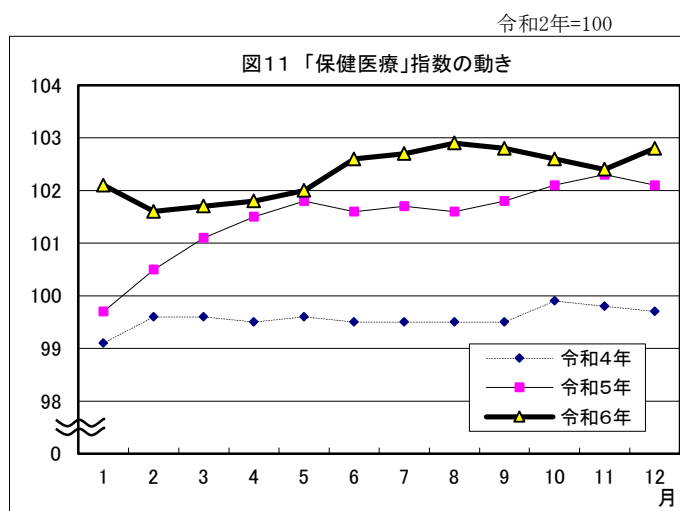


保健医療

令和6年平均は102.3となり、令和5年平均に比べ(+)0.8%の上昇となった。

内訳をみると、保健医療サービスは変わらず。

保健医療用品・器具は(+)2.2%、医薬品・健康保持用摂取品は(+)1.3%の上昇となった。

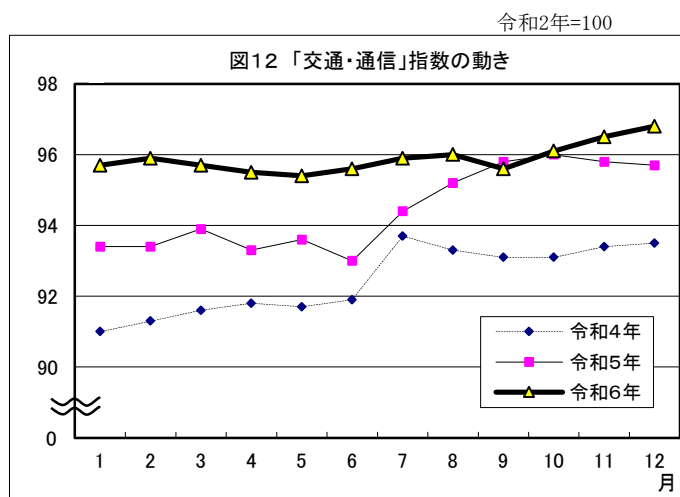


交通・通信

令和6年平均は95.9となり、令和5年平均に比べ(+)1.5%の上昇となった。

内訳をみると、自動車等関係費は(+)2.2%、交通は(+)2.0%の上昇となった。

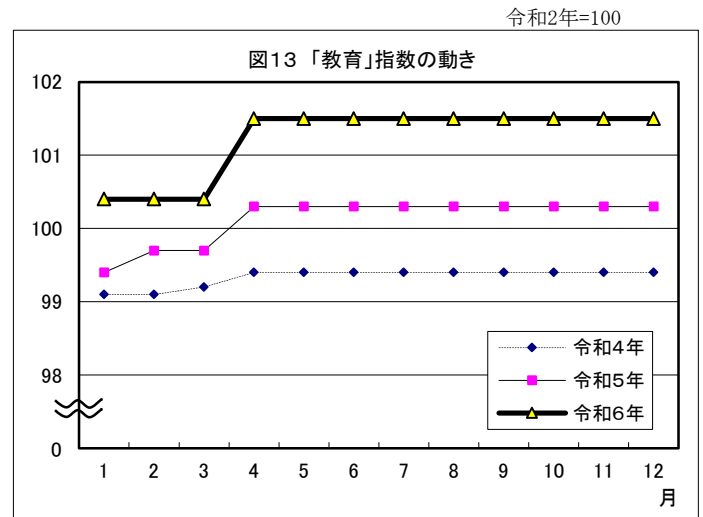
一方、通信は(-)0.5%の下落となった。



教 育

令和6年平均は101.2となり、令和5年平均に比べ(+)1.1%の上昇となった。

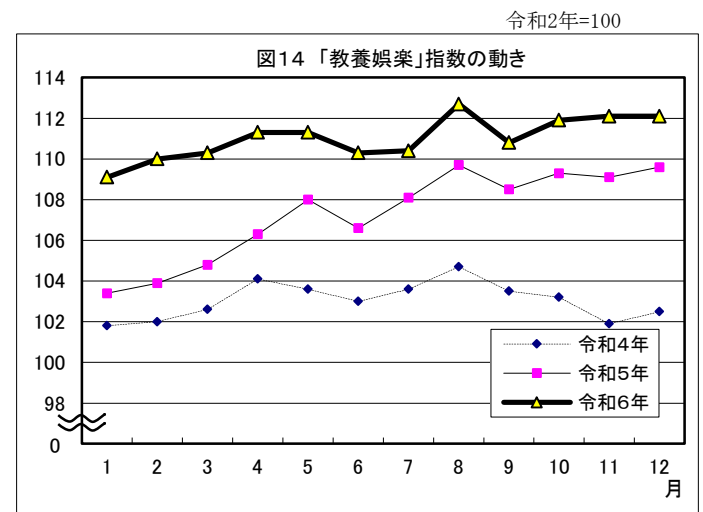
内訳をみると、教科書・学習参考教材は(+)3.0%、補習教育は(+)2.0%、授業料等は(+)0.6%の上昇となった。



教 養 娯 楽

令和6年平均は111.0となり、令和5年平均に比べ(+)3.5%の上昇となった。

内訳をみると、教養娯楽サービスは、(+)4.1%、書籍・他の印刷物は(+)3.7%、教養娯楽用耐久財は(+)2.7%、教養娯楽用品は(+)2.4%の上昇となった。



諸 雑 費

令和6年平均は106.7となり、令和5年平均に比べ(+)1.1%の上昇となった。

内訳をみると、身の回り用品は(+)5.6%、理美容サービスは(+)1.2%、理美容用品は(+)0.4%、たばこは(+)0.2%、他の諸雑費は(+)0.1%の上昇となった。

